

## 令和6年度 第2回品川区総合教育会議次第

令和6年12月24日(火)午後4時00分～  
品川区役所第二庁舎5階251会議室

司会進行:区長室長

1. 開 会

2. あいさつ      品川区長  
                    教育長

3. 講 演

(講演テーマ)

戸田市の教育改革の取り組み

(講師)

戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤 氏

4. 意見交換

5. 閉 会

# 戸田市の教育改革について



令和6年12月24日 (火)  
戸田市教育委員会  
教育長 戸ヶ崎 勤



## 戸ヶ崎 勤 略歴

平成27年4月1日～ 現職



- 第12期 中央教育審議会委員
- デジタル庁 デジタル推進委員
- 内閣官房 教育再生実行会議 技術革新WG有識者会議
- 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術 学習支援技術分科会
- 総務省・文科省・経産省 未来の学びコンソーシアム運営協議会
- 経済産業省 「未来の教室」とEdTech研究会
- 文部科学省 全国的な学力調査に関する専門家会議
- 文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議
- 中央教育審議会 第3期教育振興基本計画部会
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会
- 中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会
- 中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会基本問題小委員会
- 文部科学省 「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議
- 中央教育審議会 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
- 中央教育審議会 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会義務教育の在り方WG
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教員養成部会
- 中央教育審議会 教員養成部会教員免許更新制検証小委員会
- 中央教育審議会 教員養成のフラッグシップ大学検討WG
- 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) 評価専門調査会 「教育・人材育成WG」
- 文部科学省 今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会
- 文部科学省 質の高い教師の確保のための教職の魅力向上に向けた環境の在り方等に関する調査研究会
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会

○ 小学校12校、中学校6校  
児童生徒数 11,577人  
教職員数 635人  
(令和6年4月1日 現在)

令和6年度一般会計当初予算



■ 教育委員会予算 ■ その他の予算

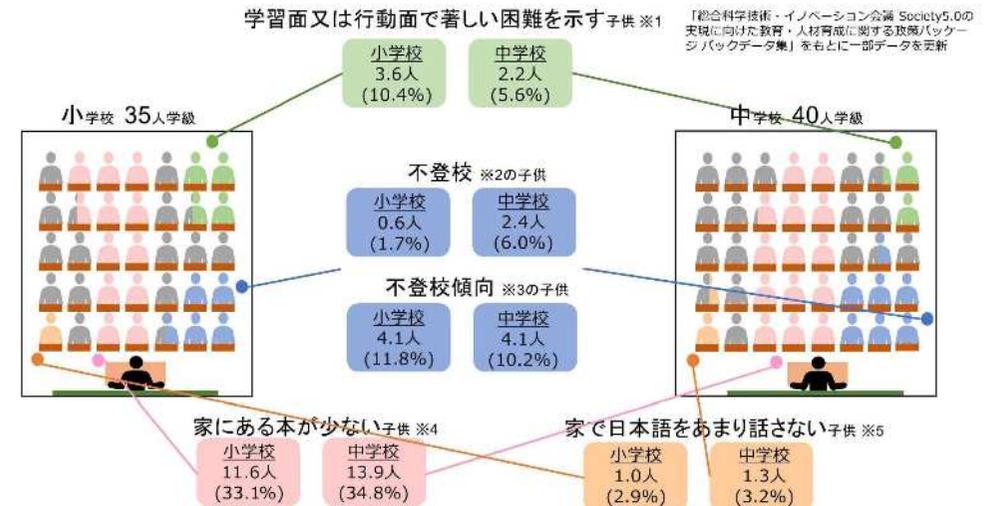
## 教室の中にある多様性

令和6年3月13日 質の高い教師の確保特別部会 (第10回) 資料

### Society 5.0の実現に向けた 教育・人材育成に関する政策パッケージ

2022年6月2日

総合科学技術・イノベーション会議  
Council for Science, Technology and Innovation

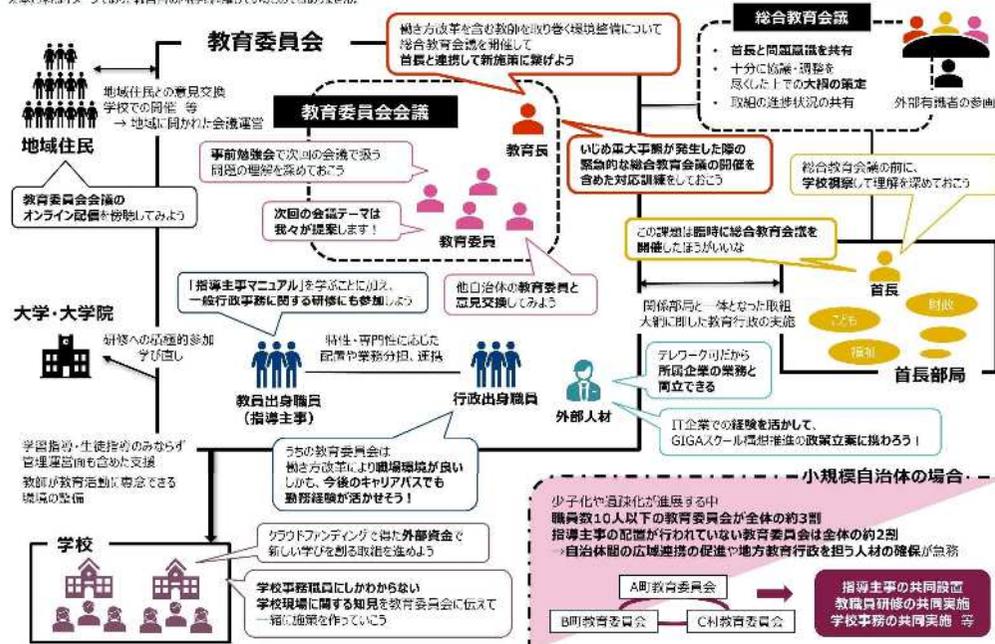


※1 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果 令和4年12月(文部科学省)  
 ※2 令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の対応態様に関する調査結果(文部科学省)  
 ※3 不登校傾向にある子どもたちの実態調査(日本財団)  
 ※4 令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童調査票、生徒調査票(あなたのお家には、おそとでどれくらいの本がありますか。)(において、「0〜10冊」又は「11〜25冊」と答えた割合)  
 ※5 令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童調査票、生徒調査票(あなたのお家では、家でどれくらい日本語を話しますか。)(において、「全く話さない」又は「ときどき話す」に答えた割合)



# 「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の具現化のイメージ

※本資料はイメージであり、報告書の内容を正確にしているものではありません。



「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた手引き  
[ Vol. 1.0 ]

文部科学省初等中等教育局  
初等中等教育企画課

目次

- 教育委員会と首長との連携強化について ..... 6
  - ▶ 教育委員会と首長との連携強化が求められる背景・現状 ..... 7
  - ▶ 事例から見てくる教育委員会と首長との連携強化に取り組む上でのポイント ..... 8
  - 01 子供関連部局の教育委員会への一元化(大阪府箕面市) ..... 10
  - 02 学校、放課後児童クラブ、児童館等が連携した不登校児童・ヤングケアラー等への対応(東京都練馬区) ..... 15
  - 03 教育委員会と首長の連携体制構築 ~いじめ重大事案対応と総合教育会議の活性化を通して~ (埼玉県戸田市) ..... 21
  - 04 プロジェクトチームを通じた特別支援的アプローチによる不登校対策(岩手県大槌町) ..... 26
- 小規模自治体間連携について ..... 31
  - ▶ 小規模自治体間連携が求められる背景・現状 ..... 32
  - ▶ 事例から見てくる小規模自治体間連携に取り組む上でのポイント ..... 33
  - 05 静岡県賀茂郡東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町 ..... 34
  - 06 長野県1市2村による教育事務の共同処理 ~学校事務職員を中心に据えた学校における働き方改革~ (長野県塩尻市・山形村・朝日村) ..... 40

## 「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けて (解説動画) ~これからの教育委員会のあるべき姿について~

「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けて」の解説動画を作成しました

YouTubeで公開中!



こちらのQRコードからご覧いただけます。



## 教育委員会会議の運営上の工夫 平成27年4月~

### 教育委員会活性化の10の心構え

キーワードは、**活性化と透明性** → 追認から提案へ、傍聴人、詳細な議事録 等

- 議事や報告の**追認に終始しない**
- 「教育委員は**教育委員会事務局の上司**である」という意識を事務局がもつ
- 事務局が知っていて、教育委員が知らないことがないように、**壁をなくす努力**をする
- 事務局で結論が出ていないことでも事前に教育委員に報告し、**共に知恵を出し合う**
- 教育委員が**主体性を発揮**できるよう、**発言しやすい環境づくり**をする
- 教育委員会会議では、必ず**教育委員提案**をいただく  
→ ICT活用の学校間格差、小学校と中学校での活用の差、学びの深化 など
- 事務局は、できるだけ**わかりやすく、丁寧な説明**を心がける
- 国や県の通知や**最新の教育情報**を随時**教育委員に提供**する
- 教育委員向けの**研修を実施**する
- 会議資料は**5日前までに委員の手元**に届ける



「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について  
 (審議のまとめ)【概要】(令和6年5月13日 中央教育審議会の高師の確保特別部会)

**第1章 我が国の学校教育と教師を取り巻く環境の現状**

**1. 我が国の学校教育の現状**

- 日本の学校教育は、全国的に一定水準の教育を保障
- 知・徳・体・心にわたる全人的教育が国際的にも高く評価
- PISA2022でも世界トップレベルの結果

これらは、教師の献身的な努力の成果

- コロナ禍により、学校が子供たちにとっての福祉的な役割も担っていることが再認識
- 学校を取り巻く環境の大きな変化(例: GIGAスクール構想の進展、社会自体の急激な変化等)

日本の学校教育は更なる高みを目指す: 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的充実

新たな学びの実現に向けて、教職の魅力や向上し、教育界内外から教師に優れた人材を確保し続ける環境整備が必要不可欠

**2. 学校が対応する課題の複雑化・困難化と家庭・地域をめぐる環境の変化**

不登校、いじめ重大事態、特別支援教育、児童虐待、外国人児童生徒、子供の貧困、ヤングケアラー、家庭・地域の状況も大きく変化など

課題が複雑化・困難化する中で、結果として、**学校や教師の負担が増大**してきた実態

**3. 我が国の教師を取り巻く環境の現状**

令和元年給付特措法を踏まえた時間外在校等時間の上限指針の策定

「3分類」に基づく学校・教師が担う業務の適正化

教職員定数の改善や支援スタッフの配置拡充など

時間外在校等時間の減少

有給休暇の取得日数の増加 など

課題

- 依然として時間外在校等時間の長い教師が存在
- 教職不足も懸念すべき状況
- 教師のメンタルヘルス対策も喫緊の課題

教師を取り巻く環境は、我が国の未来を左右しかねない**危惧の状況**

教師を取り巻く環境の**抜本的な改革が必要**

**第2章 教師を取り巻く環境整備の基本的な考え方**

**1. 「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿**

- 教師は、崇高な使命を自覚し、絶えず**研究と修養**が求められる**学びの高度専門職**であり、教職生涯を通じて**学び続けられる**ようにしていくことが必要
- チーム学校の考え方の下、**多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成**が必要

研修や学ぶ時間の十分な確保等によって**自己の資質・能力等を高められるよう**にし、**活き活きと子供たちと接することができる環境の整備が必要**

**2. 教師を取り巻く環境整備の目的**

- 教師の健康を守ることはもとより、教師の**人間性や創造性を高め、高い専門性を発揮**できるようにするとともに、**知識・技能等と修養が求められる学びの高度専門職**の環境を整備
- 新たな学びの実現に向けて、教師の資質能力の向上**や**多様な人材の教育界内外からの確保**により、**質の高い教職員集団を実現**
- 若手教師や教職志望の学生を引きつけるため、抜本的に教職の魅力や向上**

学校教育の質の向上を通じた、**全ての子供たちへのより良い教育の実現**

**3. 教師を取り巻く環境整備の基本的な方向性**

第3章 学校における働き方改革の更なる加速化

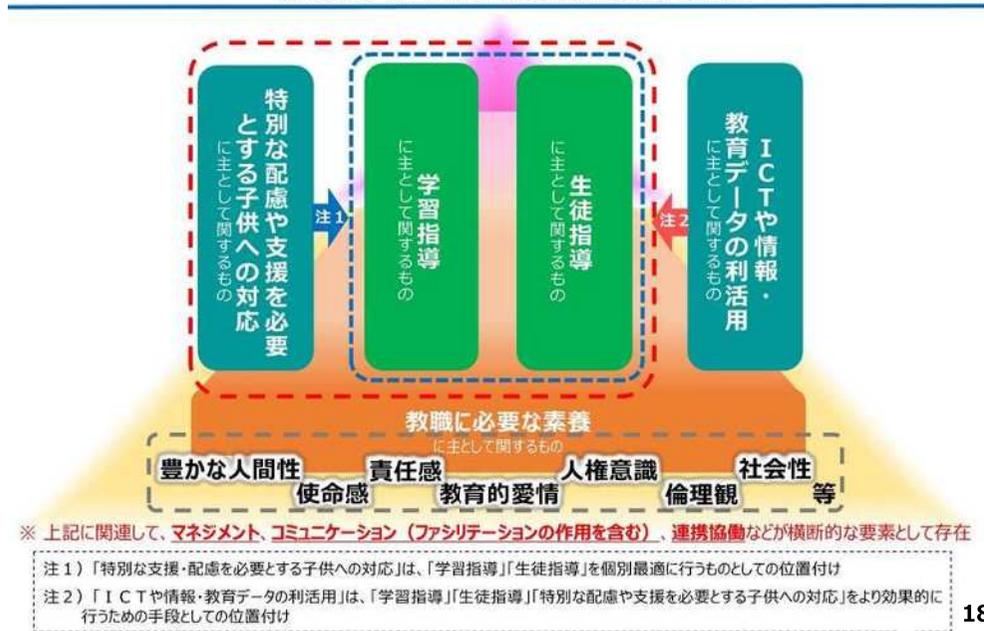
一体的・総合的に推進することが必要

第4章 学校の指導・運営体制の充実

第5章 教師の処遇改善

令和4年6月27日 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会、基本問題小委員会、初等中等教育分科会教員養成部会合同会議  
 公立の小中学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針に基づく  
 教師に共通的に求められる資質能力の具体的な内容

教師に共通的に求められる資質能力



「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について  
 ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～ 審申(概要)

令和4年12月19日 中央教育審議会 第1部 総論

中教審審申「令和の日本型学校教育」の環境を創出して(令和3年1月)・今後更に抜本的な改革を推進する事項  
 「個別最適な学びと協働的な学び」による「令和の日本型学校教育」を実現するための、教師の養成・採用・研修等の在り方

**1. 令和3年審申で示された、「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿**

- 変化を前向きに受け止み、教職生涯を通じて学び続ける・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす・子供の主体的な学びを支える者としての能力も備えている・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上による、質の高い教職員集団を実現する・多様な外部人材や専門家等とチームとして力を発揮する
- 教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志を高め、誇りを持って働くことができる

**2. 子供たちの多様化と社会の変化**

- 日本型学校教育は国際的にも高く評価される一方、教師の長時間勤務や課題
- 子供の多様化(特別支援、外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒など)
- Society5.0時代の到来、高校における共通必修科目「情報1」の開始
- 臨時任用教員等が確保できない「教師不足」問題の発生

**3. 教師の養成、免許、採用、研修に関する制度及び実態**

養成

- 教職課程では、教科の専門的単位の修得、教育の基礎的理解などの単位の修得が必要
- 2~4週間程度の教育実習が必要。ただし、一部の単位は学校体験活動で代替可能
- 国立教員養成大学・学部数は45、定員は11,021人、教員就職率は66.9%
- 小中学校の教職課程を有する私立大学は10年で3割増

免許

原則、都道府県教育委員会が授与

- 普通免許状(教職課程を経て授与)のほか、特別免許状(教科の専門的単位の修得と社会的責任の理解・高度専門性を有する者に授与)、臨時免許状(普通免許状を有する者を採用できない場合に限定、短期間限定)の3種類が存在
- 普通免許状の授与件数は、中道で減少、小学校で横ばい、特別支援学校で増加
- 特別免許状の授与件数は増加。一方で絶対数は少ない。学校種では高校、教科では、英語・看護等に集中

採用

公立の場合、任命権者たる教育委員会が採用(小中は都道府県・政令市)

- 採用倍率低下(入選者数に特別支援学校の専任教員採用に採用数、低卒受給者数の減少)
- 年齢構成は地域、学校種で大きく異なる。一部地域の小学校では、大量退職・採用のピークが過ぎ、既に若年層の占める割合が高い
- 新卒受給者数は、小学校は増減、中学・高校は減少
- 臨時任用教員等が不足する「教師不足」が発生
- 民間企業等経験者の割合は約4%

**4. 今後の改革の方向性**

- 子供たちの学び(授業観・学習観)と教師自身の学び(研修観)を統合し、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び、協働的な学びの充実)を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現
- 養成段階を含めた教職生涯を通じた学びにおける、「理論と実践の往復」の契機(理論知(学習知)と実践知などの「二項対立」の両立に陥らない)
- 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
- 教師一人一人の専門性の向上と、多様な専門性・背景を有する人材の取り込みにより、教職員集団の多様性を確保し、学校組織のレジリエンス(回復力、粘り強さ)の向上
- 学校管理職のリーダーシップの下、心理的安全性を確保し、教職員自身の多様性を配慮したマネジメントの実現
- 「学校の働き方改革」の推進
- 多様な教職志望者へ対応するため教職課程の柔軟性の向上
- 産休・育休取得者の増加、定年延長など、教師のライフサイクルの変化を前向きに捉え、採用や配置等を工夫

日本型学校教育の強み(継往開来)

- 学制が公布され令和4年9月4日で150年を迎えた日本の学校教育には、
- 多様な子供たちの共学、学び合いや教え合いなど集団を活かした学び、個に応じた指導や指導と評価の一体化、といった学習指導の蓄積がある
  - 教科教育研究、授業研究、「時・場・礼」など基本的な生活習慣の指導など、世界に誇れる固有の教育財産の蓄積もある
  - 知・徳・体を一体で育むことや、教科に加え給食活動や課外活動などの広範囲の活動に関わる全人的教育(包括的教育)の提供や学校地域社会の連携等がある
  - 日本国内どの学校でも、学習指導要領により教育課程を作成して実施することから、各教科の目標や内容が同じであり、しかも教員免許を取得した一定レベル以上の専門性のある教師が指導している
  - これらは「教師たるもの二者(学校、医者、易者、役者、芸者)」と言われ続け、多くの献身的な教師たちに支えられてきた
  - 今後も継往開来の精神をもち、日本型学校教育の強みを引き継いでいきたい
  - その維持には、①働き方改革の一層の推進による勤務時間の縮減、②指導・運営体制の充実(小学校は教科担任制の拡大、中学校は生徒指導担当教師の配置等)、③教師の裁量を尊重した処遇改善(教職調整額の引き上げ)の一体的・総合的な推進が必要である。また、一人一台端末環境の安定的な維持やさらなる充実も必要である。

# 日本型学校教育の今後に向けて



- 日本の教育は、**できないことをできるようにすることを最優先にし、よさを徹底して伸ばすことを最優先にしてこなかった**。優先順位の1位と2位を入れ替えることの違いの大きさと重大性に気づくべき
- 「誰も取り残されない」に拘りすぎ、「少なからずの子供が取り残された」状態になっている気付きが弱い。**形式的平等主義から脱して公正主義に立ち、プッシュ型の支援をしていくことが重要**
- 貧困、いじめ、虐待、障害、不登校、外国出身などといった事情を持つ子供、そして**落ちこぼれも吹きこぼれも「誰一人取り残されない教育」**に向け、具体的に真剣に取り組んでいく必要がある
- 日本の学校教育には、同年齢の学習集団と学年の一体化及び一斉授業、助け合いや勤勉や努力の奨励などの強みがある。それ故か、**特定の分野においては他に抜きん出た優れた資質（才能）を有すが、学校になじめず、授業には興味を示さず、孤立しがちで指導が困難な子供は、学校教育においても学校外の教育施設、指導者にも恵まれていない**

## 戸田市の教育改革のコンセプト

脚下照顧から



### AIでの代替は難しい力などの育成

AIでは代替できない能力の育成と、AIを活用できる能力 **生成AIの光（相乗的活用）と影**  
**21世紀型**スキル、**汎用的**スキル、**非認知的（社会情緒的）**スキルを育成

### 産官学と連携した知のリソースの活用

産官学と連携した知のリソースの活用。それも、**ファーストペンギン**を目指すことで、安価で効率的に、最先端の質の高い教育が提供されるはず

### 「経験と勘と気合い（3K）」から「客観的な根拠」への船出

教育のEBPMの重要性の認識（量的と質的エビデンス）

- episode-based から evidence-based へ
- evidence-based から evidence-informed へ
- EBPMから**EIPP** (Evidence Informed Policy and Practice) へ

### 授業や生徒指導等を科学する

- 教育の現場は**科学的**であるべき **science based** へ
- 優れた教師の**経験や勘、匠の指導技術を、言語化・可視化・定量化**するなど、**暗黙知を共有化**したり**形式知へ転換**したりして、若手が**再現**できるよう、**効率的・効果的に伝承**していくべき。そのために**教育データを積極的に利活用**していくべきである

# 戸田市SEEPプロジェクト

～産官学と連携した教育改革の重点～

SEEPとは、Subject、EdTech、EBPM、PBL、の4文字のアクロニムであり、「浸透する」の意味 → **薫習**



子供たちにこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けさせるために、教科の本質を捉えた授業改善を目指す。



教育政策シンクタンクを中心に教育の定量的データ及び定性的データの分析を行い、「経験と勘と気合い」から脱却したエビデンスに基づく政策立案を行う。



「指導と管理」のPCから「学びと愛用」のPCとしたICTのマストアイテム化をはじめ、教育とテクノロジーの融合による新たな学びを推進する。



社会に開かれた「誰かの何かの課題」を解決する活動を通して、子供たちの未来を切り開く探究者としての資質・能力の育成を目指す。

## 当面の取組の方向性

現状・課題

当面の方向性

- 1**

**授業を科学する**

  - ✓ 教師の経験と勘と気合い（3K）のみによる教育から脱却し、客観的な根拠に基づく教育に転換する必要
  - ✓ 子供たちが主体的に自らの考えを外化したり、学びのプロセスを共有したりする中で、**子供も教師もリフレクションが深まる気付きを多く得ることが必要**
  - 引き続き、アクティブ・ラーニング（AL）指導用ルーブリック・戸田市版SAMRモデルの活用と児童の変容の見取りによる、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けたデータ駆動型の授業研究を推進**
  - 全ての教師の指導改善に繋げられるよう、**多角的な視点からの匠の技の可視化やAL指導用ルーブリックの更なる改善**について取り組む
- 2**

**生徒指導を科学する**

  - ✓ 様々な生徒指導上の課題は早期発見・早期対応が不可欠であるが、**教師や保護者などの気付きや観察だけでは限界がある**
  - ✓ 不登校が子供達の学力面・情意面へのどのような影響を及ぼしているか、客観的に把握する必要
  - 教育総合データベースにより、子供達の**不登校等のSOSの早期発見・対応**を試行することで、**積極的な生徒指導を補強**
  - 専門家による不登校対策ラボラトリー「ばれっとラボ」において、本市の**不登校対策・支援に関する調査・研究・評価**を実施
- 3**

**学級・学校経営を科学する**

  - ✓ 子供の社会経済的背景等の困難を考慮した学級・学校単位での学力等の伸び、**学校の理解度や信頼度などを可視化・定量化**する必要
  - ✓ 教師にとつてのAL指導用ルーブリックのような、**学校管理職にとって学校経営を自己・他者評価**するような視点が必要
  - 教育総合データベースの「学校カルテ」機能や学校訪問におけるデータの利活用等を通じて、**学級・学校経営を科学する取組を推進**
  - アセスメント・ファシリテーション能力を含めた**学校経営の視点を示したルーブリックの作成**について検討

## 教育村、学校村の意識改革（コンセプトの学校への浸透）

### （1）生徒指導と学級経営の充実

- 生徒指導の王道は学力向上にあり ○学力向上は学級経営と授業の充実にある

### （2）校長のリーダーシップの発揮

- 校長が「代（変）われば」学校が変わる ○学校間ピアレビューで成果と課題の共有化を
- 挫折回復（resilience）能力 ○識時務者在俊傑

### （3）授業改善に向けて

- 「授業改善日」や「授業改善の時間」の計画的な設定
- 素人の目から見てもわかる授業改善を → ICT機器活用が最も効果的
- 例外を出さない授業改善 ○教師自身がパッシブラーナーからアクティブラーナーへ

### （4）社会に開かれた教育課程と学び合う職員室に

- 変化する社会の動きを教室の中に入れるため、産官学と連携した様々な学びや人材等の原材料を教育委員会で用意していく。授業改善、校内研修、研究発表などで躊躇なくフル活用してほしい
- 社会構造の変化を各学校で共通認識し、目の前の子供たちの実態を踏まえ、どのような力を育てるか、**学年や教科を横断して根本にさかのぼった議論を**

児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実

学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間に

リスクを恐れることが最大のリスク。凡庸な90点の取組より60点でも夢のある挑戦を

人より先に失敗する 失敗を恐れて時機を逸するな

24

## Society5.0の時代の教育展望



子供たちがペーパーテストを受けている場面。限られた時間で自らの記憶や思考だけを頼りに黙々と正解を追い求めている。今の子供たちが社会に出たら、これと同じ状況になることは恐らくない。実生活における課題解決場面は、正解があるわけではない、全てのものにアクセスできる、他人と協力し合い回答を導く、そうしないと解決しないものばかりである。



- 課題発見・解決力（社会課題を見つけて動かす力）、
- 創造力（無から有を生む力）を伸ばすプログラムの充実  
⇒ PBL（Project Based Learning：課題解決型学習）へのトライやSTEAM教育の基盤づくり

脱・正解主義 脱・自前主義 脱・予定調和

26

## 第四次戸田市教育振興計画紹介動画（ダイジェスト）



第四次戸田市教育振興計画 紹介動画



25

## 次期学習指導要領と働き方改革 H28.12



次期学習指導要領は、「働き方改革」なしでは実現できない

- 業務や教育活動などを、見直して精選する期間が、新学習指導要領の移行期間
- 次期学習指導要領に向けた「準備」と教師の「働き方改革」は同時進行で進める

授業改善を業務改善のトリガーに

- 「働き方改革」ができなければ、新学習指導要領の求める「授業改善」はできない
- 「働き方改革」の絶好のチャンスだか、「働き方改革」が失敗すれば、次期学習指導要領の実現も難しくなる
- 子供たちの健やかな育ちを真剣に考えればこそ、「働き方改革」を最優先に

27

# 緊急提言を受けた自分事としての取組 (令和5年9月～)

## 1 総合教育会議

- 教育を取り巻く環境の改善には、**教育委員会と首長部局との連携が不可欠**
- 市長及び教育委員から以下のような取組が考えられると発言
- ◆**地域住民・市議会に対して「学校・教師が担う業務に係る3分類」について周知**
- ◆**人的・物的支援に係る予算措置を検討**
- ◆**保護者・地域住民からの要望等に対し市教委・首長部局含めチーム戸田市で対応**

## 2 校長会ピアレビュー

- 全校長が当事者意識を持ち、学校主体でできることや、一斉に取り組むべきこと等**を検討
- 短期(今すぐ)、中期(R6当初)、長期(3年以内)**にできることを検討
- 外部人材の活用及び専門家からのコンサルティングとフィードバック**

## 3 学校運営協議会研修

- 市教委主導**で市内全小中学校の学校運営協議会委員・管理職の研修を実施
- 緊急提言及び「学校・教師が担う業務に係る3分類」**についての周知  
→**学校運営協議会が主体となることができること**の検討
- 学校運営協議会を主体として、学校の働き方改革を推進している事例の共有**

## 4 その他

- 市の広報誌**に「3分類」について掲載し、**市民へ啓発**
- 学校から保護者等**に「3分類」等の啓発(学校だより、SNS、HPなど)



Intel本社 General Manager Intel Education & Center of Excellence Cigdem Ertem 氏  
インテル株式会社 代表取締役会長 鈴木国正 氏  
半熟仮想株式会社代表取締役、イーエル大学助教授、東京大学特別研究員 一橋大学特任教授 成田悠輔 氏  
メディアアーティスト、筑波大学学長補佐 落合陽一 氏



文部科学大臣 あべ 俊子 氏  
株式会社オリイ研究所 所長 デジタルハリウッド大学院特任教授 吉藤 健太郎 氏  
東京大学大学院工学系研究科教授 日本ディープラーニング協会理事長 松尾 豊氏  
慶應義塾大学名誉教授 元・中央教育審議会会長 安西 祐一郎 氏



# 産官学連携推進プラン2024

Ver.1

戸田市教育委員会

## ■ 新たな学びの創造

### アクティブ・ラーニングの推進・教員研修の高度化

文部科学省 / CoREF / 慶応義塾大学 / 共栄大学 / Benesse(株) / FCEJ(株)

### PBL・探究的な学びの推進

インテル(株) / (株)キヤリアリンク / (株)WIL / COLEYO(株)  
(株)Prima Pinguino / (公財)日立総合 / (株)LX DESIGN

### プレゼンテーション力の向上

(株)リハネスキャピタル / フューチャーインスティテュート(株)  
(株)未来教育デザイン / (特非)日本PBL研究所 / (一社)アルパ・エデュ

### STEAM教育の基盤づくり

中村学園大学 / インテル(株) / Adobe(株) / リコージャパン(株)  
(株)アパロニク/ロジャーズ / ビープロジャパン(株)

### 理数教育の充実

お茶の水女子大学 / 東京理科大学 / 埼玉大学 / 日本薬科大学(株) / リハネスキャピタル  
(株)SteAM / 東京ガス(株) / (株)ナリカ / (株)リコー・サーモフィジジャー・サイエンス・インフィフック  
(特非)グリーンガーディアンズ / エルプレス / Code for TODA

### リーディングスキルの研究

国立情報学研究所 / 東京理科大学 / 筑波大学 / 東京理科大学  
(一社)教育のための科学研究所

### 英語教育の充実

福島県西会津町 / 国立教育政策研究所 / 青山学院大学 / (株)内田洋行  
(株)サイエンス・インターナショナル / (株)ポスターリンク / (株)ハートコーポレーション

## ■ GIGAスクール構想の推進

### ICT環境整備・ICTのmastアイテム化

Google(株) / Microsoft(株) / インテル(株) / Adobe(株) / (株)内田洋行  
ダイワ情報システム(株) / 富士電機ITソリューション(株) / NTTコミュニケーションズ(株)  
セイコーエプソン(株) / ASUS(株) / Lenovo(株) / (株)EDUCOM / セキユアロジック(株)  
(株)SPRIX / Benesse(株) / (株)Loloi / (株)ジャストシステム / (株)COMPASS  
(株)EdLog / (株)理数科学工業 / (株)TOA / (株)RSコネク / (株)フルシステムズ

### デジタル・シティズンシップ教育の推進

弘前大学 / 東京学芸大学 / 京都大学 / 法政大学 / フューチャーインスティテュート(株)  
スマートニュースメディア研究所 / (一社)メディア教育研究会

### プログラミング教育の推進

フューチャーインスティテュート(株) / (株)Benesse / ソニーマーケティング(株)  
(株)アテック / (株)ナリカ / (一社)CEE ジャパン / (特非)みんなのコード

## ■ EBPM・EIPPの推進

### 教育政策シンクタンク外部アドバイザーボード

東京大学 / 日本大学 / 慶応義塾大学 / 上智大学 / イェール大学  
聖心女子大学 / 堺みくに法律事務所 / 認定NPO法人カトリバ

### 各種調査分析等の共同研究

国立教育政策研究所 / 東京大学 / 慶応義塾大学 / (株)LITALIGO  
IGS(株) / スマートニュースメディア研究所 / ハイラブル(株) / 半熟仮想(株)

### 教育総合データベースの構築

こども家庭庁 / (株)内田洋行 / Ddrive(株) / (株)EDUCOM

## ■ 誰一人取り残されない教育の推進

### 生徒指導・教育相談の充実

埼玉県警 / 青山学院大学 / LINE(株) / 東京メンタルヘルス(株)

### 不登校対策支援

埼玉県教育委員会 / 北海道大学 / 秋田大学 / 北陽大学 / (認定NPO)カタリバ  
埼玉県立大学 / 立教大学 / 跡見学園女子大学 / (株)WEBQU教育サポート  
日本薬科大学 / (株)学研エルスタッフイング / (株)トライグループ / スタンドバイ(株)

### 特別支援教育の充実

国立特別支援教育総合研究所 / 東京学芸大学 / 獨協医科大学 /  
(株)LITALIGO / ソフトバンク(株) / (株)学研教育みらい / (一社)UNIVA

### 放課後の学習支援

(株)学研エルスタッフイング / (株)トライグループ

## ■ 体力の向上

### 授業支援・部活動支援

日本体育大学 / 青山学院大学 / 国学院大学 / リーラス(株) / (株)ルネサンス  
東京ヤクルトスワローズ / 西武ライオンズ / 戸田中央メディックス女子ソフトボール部  
(特非)戸田スポーツクラブ

## ■ 非認知能力の育成

### 道徳教育・キャリア教育の充実

早稲田大学 / 開智未来大学 / フューチャーインスティテュート(株) / (株)F学  
(特非)セキユアロジック / アーチメント(株) / KCJ GROUP(株)  
(一社)日本経済団体連合会 / 住友生命保険(株) / スタートライン(株)

# 一人一台を生かした学びの構想 2016～

- **実践のキーワードは「Just do it」「百聞百見は一験にしかず」**
- **教師主導の「指導と管理」による「教具的利用」から  
学習者中心の「学びと愛用」による「文具的活用」へ**  
・ 定着のキーワードは“**entrust**” PCの普段使いは**子供たちの方が上**  
・ **意識されず忘れる**くらい当たり前、いつでもどこでも活用できてこそ**一人一台**
- **何のために使うか**で価値が変わる。大切なのは、**学びの質の向上**  
**Pedagogy First, Community Second, Technology Third** は学習指導の肝  
・ **知の自転車たるPC**を、新たな学びの可能性と「主体的・対話的で深い学び」  
の実現に向けた**授業改善に生かす**ことが大切  
・ **プリント学習からの離脱**と**ノート離れの見直し**を  
・ **PC利活用**という手段が**目的化し、スマートで軽い授業**にならないよう注意  
・ **学習者の活動がそのまま各自の考えの外化**になるような使い方や  
「**対話の可視化**」などの模索を
- **PC (ICT) は魔法の杖ではない**。「技術」が解決するのではなく  
「活用」によって解決される → **教師の存在が大切になる**  
・ 時には**究極のチョーク&トーク**の授業にも**チャレンジ**  
・ 単なる若手ではなく**指導力のある教師が活用**してこそ校内に広がる
- **視野の外部や他者理解のため、アナログとデジタルの融合を**  
・ **学校図書館のニーズが高まる**。メディアセンターとしての役割の機能強化を

## これまでの学校教育



一方向的・同期的

## これからの学校教育

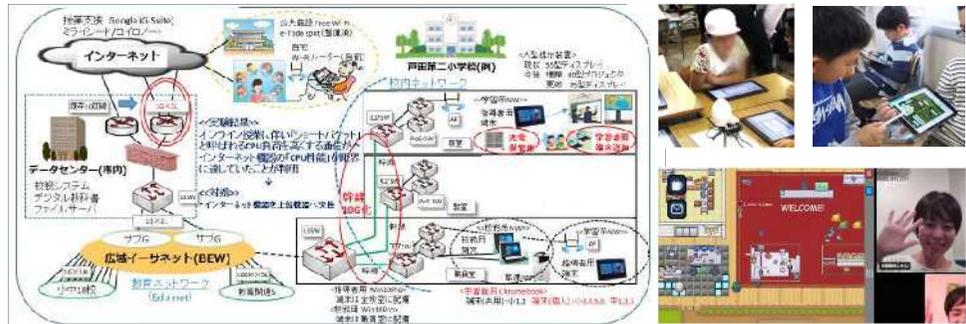


双方向的・非同期的

## GIGAスクール構想の実現に向けて 2020~

### 第2フェーズ

- ・教育データの利活用（学びのカルテ、生徒指導上のSOSの早期発見など）
- ・戸田型オルタナティブ教育（多様なニーズに応じ、落ちこぼれも吹きこぼれも、誰一人取り残されない教育）へのトライアル
- ・デジタル・シチズンシップ教育の充実やメディアリテラシーの挑戦
- ・学校と家庭等との日々のシームレスな学び（クラウド化の深化や反転学習）
- ・デジタル教科書やCBTが快適に機能するネットワーク環境の強化+ゼロトラスト
- ・高度で最先端の学びを実現できる「次世代のメディアルーム」
- ・公立小・中学校でのSTEAM教育の基盤づくり



## ICTの文具化に向けた指標 戸田市版SAMRモデル

SAMRモデル (Ruben. R. Puentedura 2010) とは

ICTを授業等で活用する場合に、そのテクノロジーが授業にどのような影響を与えるのかを示す尺度。SAMRの4文字のアクロニムによりいくつかの解釈があるが、戸田市では以下のように捉える。

S (代替) Substitution	A (増強) Augmentation	M (改革) Modification	R (再定義) Redefinition
<p>アナログでできることをデジタルに変換</p> <p>紙でもできる活用にとどまる</p> <p>デジタルの特性発揮の有無</p> <p>(例) ・デジタル教科書で本文を提示 ・PDFで課題を配布、回収 ・板書を電子黒板に記入 ・デジタルドリルの活用 ・e-BOOKで読書 ・その他、Googleアプリ等を紙と区別なく単純に利用</p>	<p>デジタルの特性を生かして、学習効果を増大</p> <p>デジタルの利用により付加価値が加わる</p> <p>活用経験・スキルの蓄積</p> <p>(例) ・全員の考えを共有して協働思考 ・ファイルの共同編集 ・文章校正など試行錯誤的活動 ・コメント機能による相互評価 ・データの即時集計、可視化 ・録画によるモニタリング ・校内外とのオンライン接続</p>	<p>個別最適・協働的な学びの実現に近づく</p> <p>子供による学習調整と自然発生的な協働が生まれる</p> <p>教師の役割の変容</p> <p>(例) ・スタディ・ログの活用 ・AIドリルのレコメンドの活用 ・シームレスな学び ・タスク管理、相互コメント等によるプロジェクト進行 ・その他、習熟したスキル等を組み合わせた活用</p>	<p>実社会の課題解決や新たな価値の創造</p> <p>実社会の課題解決や新たな価値を創造する</p> <p>社会に関与した活用</p> <p>(例) ・学習成果を社会にリリース ・最新のテクノロジーの機微利用 ・一つのプロジェクトをデジタルで完結 ※従来は想像できない新たな可能性が開かれる段階のため、「M」以上の取組を「R」と捉える</p>

※ 各段階の(例)は一例であり、前後の段階においても行われることがあるが、学びの質には差異がある。

教具的活用 (教師の指示・授業の流れ)

文具的活用 (子供の主体的選択/活用)

教師が活用場面を決める ⇒ 子供が活用場面を決める ⇄ 子供が活用場面を決める (知の自転車)

情報モラル (受動的・制限的)

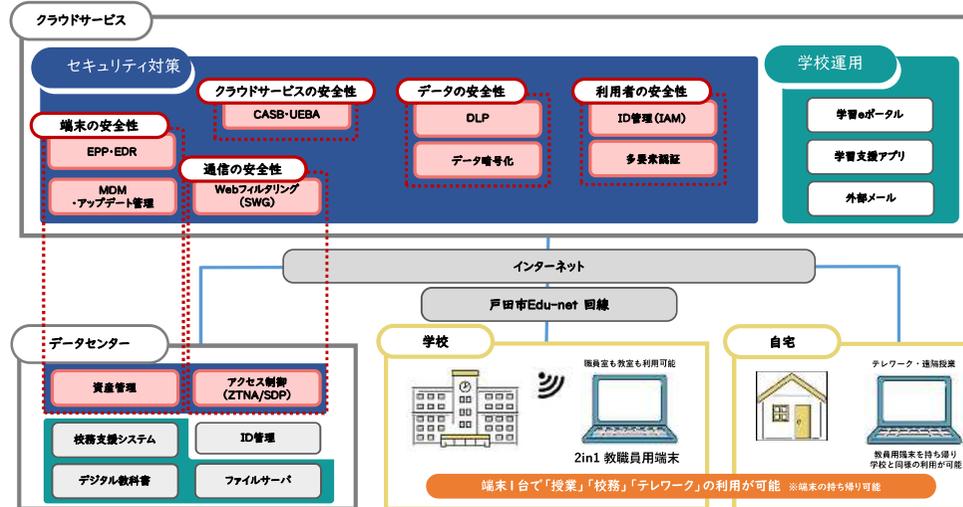
デジタル・シチズンシップ

Digitization

Digitalization

Digital Transformation

## 戸田市版ゼロトラスト概要図



今後は、ハードウェア・ベースでマルチレイヤーなセキュリティーによりPCを保護していく必要性も  
→ ハードウェア・ベースの統合型PCプラットフォームの構築

## PCの2in1と ゼロトラスト・セキュリティ構築

働き方を変える環境を創出

戸田市教育委員会様

遠隔地から授業を行う際のセキュリティを確保し、児童生徒の学習環境を向上させるために、ゼロトラスト・セキュリティ構築を実施しました。



ゼロトラストの導入により、セキュリティの強化が実現しました。



現場の実情に寄り添った  
充実のサポートを高く評価

現場の実情に寄り添った充実のサポートを高く評価。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

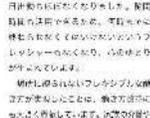
現場の実情に寄り添った充実のサポートを高く評価。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

様々な事情に合わせた  
フレキシブルな対応を実現

様々な事情に合わせたフレキシブルな対応を実現。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

現場感覚を持った  
サポートに期待

現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。



現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。



現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。



現場感覚を持ったサポートに期待。導入後のサポート体制が非常に充実しており、導入後のトラブルも迅速に対応していただきました。

## ICT教育を推進していくために

### ○ less is more

使いもしない武器（知識）をたくさん持たせるより、クラウド等を活用しつつ、限られた武器や道具（知識）を巧みに使えるようにすることが大切

### ○ 教育改革との一体的な推進

ICT活用のみを追究すればTechnology Firstに止まる。新たな時代の学びを創造し、社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育改革と一体的に推進すべき

### ○ その他、留意したいこと

#### R5.06.16 経済財政運営と改革の基本方針2023

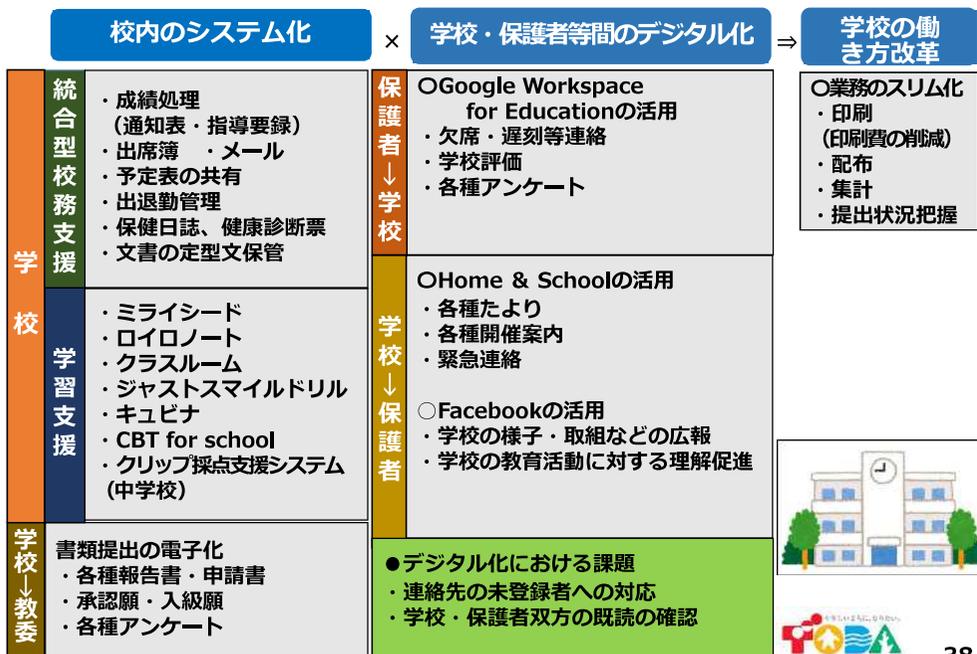
国策として推進するGIGAスクール構想の1人1台端末について、公教育の必須ツールとして、更新を着実に進める。

#### ※フロントランナーへの支援

- 早くから一人一台端末を整備してきた自治体は端末の更新時期を迎えており、その更新費の捻出が大きな課題となっている
- また、経年劣化等で機器の故障も目立つ中、修理に出せば早くても2週間かかる。端末はニュースタンドな文房具であり、取り替えられないことは大きな問題
- 成果や課題等を国で検証し、**GIGAスクール構想セカンドステージ**に向けた検討を是非ともお願いしたい

「GIGAスクール構想」が日本の教育のデジタル化元年として未来に記憶されて欲しい。「4万5千円の文鎮」として放置されるなど「終わりの始まり」の年として語り継がれてはならない！

## 学校のデジタル化による働き方改革



## 情報モラル教育からデジタル・シティズンシップ教育へ

危ないから使用を制限する

安全な枠内で大いに使い小さな課題を解決しながら学ぶ

**情報モラル**

ICTの活用は**限られた場面**

デジタルにおける**デメリット (トラブル等) のリスク管理**  
「あなたは何をしてはいけないか」

教育者 (教師) が主体

心情規範・他律的・同一・自制

主に**個人の安全な利用**に向けて

質的転換

**デジタル・シティズンシップ**

ICTの活用が**前提・日常利用**

デジタルの**メリットを踏まえた責任ある主体的利用**  
「あなたは何かができるか」

**学習者が主体**

行動規範・自律的・多様・活用

情報社会を築く**市民としてテクノロジーをどう活用するか**

領域	育成したい子供の姿 (例)
メディアリテラシー	メディアの作られ方を理解し、情報源に接した際にはその信頼性について立ち止まって考え、多面的・多角的にメディアを吟味し、行動できる。



# インクルーシブ教育システムの実現に向けた産官学連携

課題：一部のベテラン教師の2K（経験・勘）により強くリードされる

教育の原点である特別支援教育こそ、新しい2K（科学・根拠）の導入を

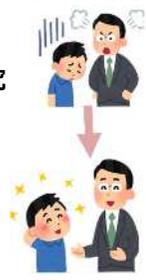
## 「特別でない、特別支援教育」の実現

—多様なニーズへの支援が当たり前である教育へ—

戸田市特別支援教育推進計画より

### ○ (株) LITALICO

- ・特別支援教育アドバイザーを委嘱し、学校への指導助言の実施
- ・保育所等訪問支援の実施
- ・教師によるペアレントトレーニングの学校導入
- ・学校版「個別の指導計画」作成システム導入の共同研究 ▶ まなびプランの開発



44

### ○ 一般社団法人 UNIVA

- ・スクールワイドPBS (Positive Behavior Support) に関する研究
- ・RTI (Response To Intervention) に関する研究

### ○ 獨協医科大学

- ・発達障害専門医による医療相談

### ○ 東京学芸大学

- ・難聴言語通級指導教室入級支援委員診断委員への指導

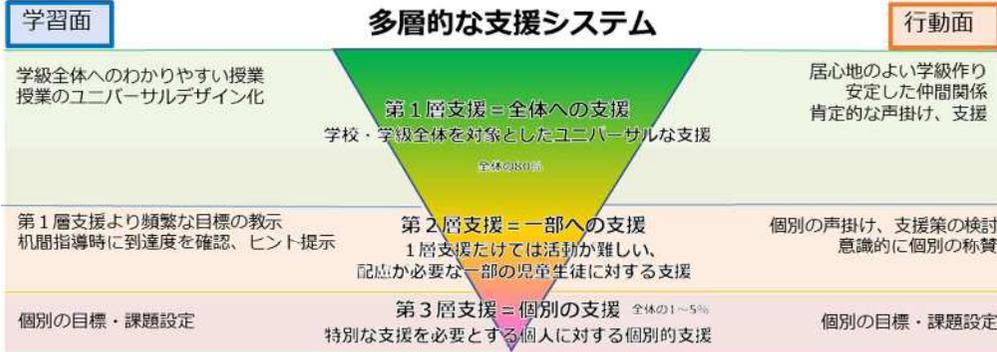
### ○ 国立特別支援教育総合研究所・(株) 学研教育みらい

- ・多層指導モデルMIMの導入、ビジョンアセスメントWAVESの導入

## 「多層的な支援」RTI (Response To Intervention) モデル

### 多層支援の考え方のポイント

- 1層支援を充実させることで、相対的に第2層・第3層支援の児童生徒が少なくなります。「この子、個別支援が必要だと思っていたけど、1層支援を充実させたら追加の支援がなくなっただ！」という感想が出たこともあります。
- 第2・3層支援の児童生徒へより個別な支援が可能になります。
- この子は第1層、この子は第2層・・・と決めるものではありません。「勉強は1層支援で理解できるが、行動面は2層の支援が必要」であったり、「1学期は3層の支援が必要だったが、2学期は2層の支援で理解できていた」といったように、活動内容や成長段階によってどこに位置するかは変わります。



46

## PBS (=ポジティブな行動支援) の学校導入に関する研究

○ ポジティブな行動支援 (Positive Behavior Support) とは？

・・・児童生徒の望ましい行動を育てる支援方法です！

### PBSの考え方のポイント

- ・何か問題が起きた後に支援するのではなく、**予防的な支援**であること。
- ・できていないことに着目するのではなく、**できていることに着目**すること。
- ・望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく、**望ましい行動を「称賛や承認」で増やし、結果的に望ましくない行動を減らす**こと。

### ○ 取組の流れ

望ましい行動 (3つの大切) を定義し、どの目標から取り組むかを決定する

### 支援計画を作成する

- ・どのように児童生徒に指導するか
- ・望ましい行動が起きた時、どのようにほめるか
- ・児童生徒の行動をどのように記録をとるか

### 計画を実行

行動の記録を取り、計画の振り返りを行う  
成果が出たら次の目標の設定へ

### ○ 期待できる効果は？

- ・教員の怒る回数が減り、称賛する回数が増える
- ・児童生徒が自信をもって行動に取り組める
- ・問題行動を予防できる

・・・など

PBSを導入することで、教員も児童生徒も笑顔でいる学級づくりが期待できます



45

## なぜPBLが必要か

	自分を大人だと思	自分は責任がある社会の一員だと思	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思	自分の国に解決したい社会課題がある
日本 (n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%
インド (n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%
インドネシア (n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%
韓国 (n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%
パキスタン (n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%
中国 (n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%
タイ (n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%
アメリカ (n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%
ドイツ (n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%

2019年11月30日「国や社会に対する18歳意識調査」日本財団

47

# プレゼン大会でPBLの学習成果を発表

**市制施行50周年記念**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

平成29年度 1月14日

**平成29年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

平成30年1月20日

**平成30年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

平成31年1月12日

**令和4年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

令和5年度 1月27日

**令和元年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

令和2年1月25日

**令和2年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

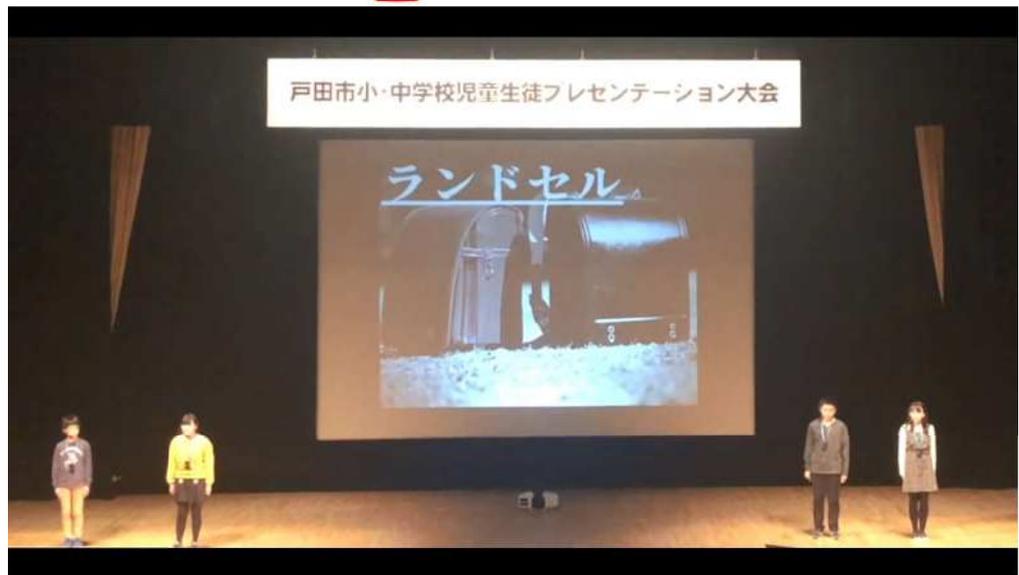
令和3年1月16日

**令和3年度**  
**戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会**

令和4年1月27日

# 令和元年度 戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会

(小学生の部) **金賞** 戸田市立戸田東小学校  
「YouTube」にて視聴可能



## 戸田市におけるEBPM (EIPP) の推進

**戸田市におけるEBPM (EIPP) の考え方**

目的…「経験と勘と気合い」(3K)による教育実践や施策立案から脱却し、エビデンスに基づく効果的・効率的な教育改革を推進すること

質的研究

実践事例やアンケート、インタビューの分析等の定性的な研究

量的研究

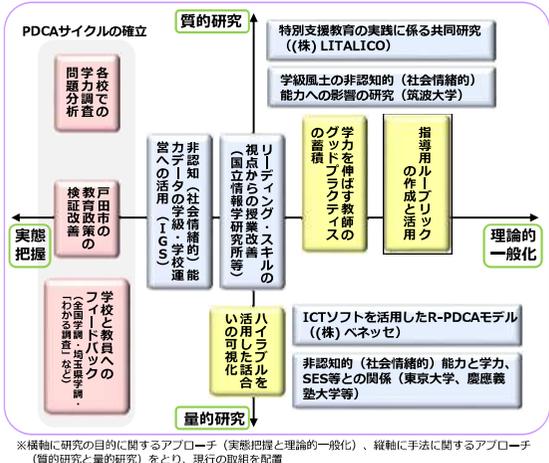
統計データの分析による相関関係の発見等の統計的・実証的な研究

※「量的研究」と「質的研究」は戸田市における造語で、実証研究と非実証研究にほぼ該当するイメージである。

## 3つの目的別アプローチ

- 実態把握**: 調査結果等のデータを活用することで課題や実態を把握・分析し、PDCAサイクルにつなげる (→①)
- 理論的一般化**: 実際の教育実践の事例を研究することで、優れた指導法等に関する知見の積み上げ (→②) や教育改革への新たな視点の発見 (→③) につなげる

## 戸市市のEBPM (EIPP) 取組マップ



**① PDCAサイクルの確立**

教育委員会レベル 各施策について成果指標を定め、市全体に関するデータを把握し、PDCAサイクルの確立を図る。

学校レベル 各種調査の学校ごとのデータを学校にフィードバックし、学校経営や学校運営、学力向上策に役立てる。

教師レベル 埼玉県学力調査等によるクラス全体の伸びを教師にフィードバックし、日々の授業改善に役立てる。

**② 授業改善に係る知見の一般化・規準化**

授業改善等のための重要なポイントを一一般化・規準化する。(言い換えれば、ベテラン教師の経験や優れた勘、匠の技(指導技術)などを可視化・言語化・定量化する。) これによる規準を教員の日常的な授業改善の参考にしたり、授業の自己・他者評価のツールとして活用したりすることで、知見を見える化し、学校や世代を超えて積み上げる。

(取組例)  
○「指導ルーブリック」…アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のため、6つの授業に対する延べ100人以上による評価表をベースに重点事項をまとめた指導用ルーブリックを本市独自で作成。これを研究授業や校内研修において活用。  
○グッドプラクティスの共有…県の学力調査のデータから、特に学力を伸ばしている教師を複数抽出し、授業での心がけ等について聞き取り、ポイントを整理・共有。

**③ 教育改革の新たな視点の発見**

非認知能力の学力への影響、アクティブ・ラーニングの有効性、リーディング・スキルへの課題等、様々な共同研究の成果やプロセスにおいて発見された。今後の教育改革に対する新たな気づきをさらに掘り下げて、新たな研究材料とする。

(取組例)  
○リーディング・スキルの視点からの授業改善…国立情報学研究所等のリーディング・スキル・テストによる子供の読解力への課題発見を契機に、当該テストの視点を取り入れた授業改善の手法を各学校の実践に基づき研究。  
○特別支援の視点からの授業改善…企業と連携し、ユニバーサルデザインに基づく学校経営とその成果検証を行うことにより今後の全体の授業改善に役立てる。

## 戸田市リーディングスキル (RS:汎用的読解力) 育成プラン

～すべての児童生徒が教科書を読めるようになるために～

RSとは、未知のテキストを読み、未知の概念と知識とを理論的に結びつけながら理解していく力

**人工知能 (AI) が様々な職業を代替していく時代に向かうために**

**授業改善**

- 「正解を当てる力」を付けるだけの学校教育からの脱却
- 「AIでは代替することができない能力」の育成
- AIには難しいと言われる「意味がわかって考える力」の育成

国立情報学研究所 共同研究 戸田市教育委員会

○ RSTの実施 (市内全小6生及び全中学生及び希望する学校の教師)

○ RST結果の分析

- 全国及び埼玉県学力・学習調査との相関分析
- RSの高い児童生徒の学習状況等

○ 教員研修会の開催

- 戸田市RS研究会による授業研究会
- 市センター研究員RS部会での授業案づくり (勤務時間後の自主的学習会)
- 管理職や教員対象のRS研修会の開催

**AIに負けない子どもを育てる**  
新井紀子

**AIに仕事を奪われない! 読解力アップの実践法**  
新井紀子

**AI vs. 教科書が読めない子どもたち**  
新井紀子

**人工知能はすでに合格レベル**  
勝つために必要に人間が



戸田市では平成16年度から「授業がわかりますか」「授業が楽しいですか」という子供に対するアンケート調査を行っており、授業改善に活用。令和3年度は戸田市における各学年、各教科の傾向を分析した。

主な結果①

全体的に「わかる」よりも「楽しい」の方が、学級による違いが大きい。(特に小学校)

表3「わかる」の分散指標 (③)

教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.26	0.25	0.93	0.71	0.41
小5	0.35	0.75	0.98	0.87	1.11
小6	0.49	0.39	0.57	0.51	0.82
中1	0.35	0.36	0.85	1.56	1.62
中2	0.63	0.77	1.97	0.95	1.75
中3	0.49	0.58	0.77	0.78	1.24

考察

理解することも大事だが子供達が何を楽しいと感じるかに留意しつつ、教科の本質的な楽しさをいかに伝えられるかに腐心すべき。

表4「楽しい」の分散指標

教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.67	0.89	2.33	1.32	0.88
小5	0.94	1.73	2.67	2.00	2.31
小6	1.44	2.51	1.52	1.70	2.58
中1	0.47	1.05	0.98	2.80	1.93
中2	0.77	1.17	2.41	1.93	3.19
中3	1.13	1.29	2.09	1.77	2.00

考察

わかるけど楽しくないと感じる子供が多くなる。子供が主体となり、学習内容を探究したりアウトプットしたりすることが重要。

表5「わかる」と「楽しい」の相関係数 (④)

教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.63	0.55	0.76	0.59	0.49
小5	0.73	0.61	0.86	0.74	0.88
小6	0.71	0.68	0.53	0.56	0.69
中1	0.60	0.53	0.72	0.72	0.54
中2	0.76	0.53	0.71	0.14	0.88
中3	0.58	0.34	0.47	0.38	0.75

相関係数は「わかる」と「楽しい」の関係性の強さ。およその目安として、0.8以上で強い相関、0.7~0.8でやや強い相関、0.5~0.7で弱い相関があるといえる。

主な結果②

「わかる」と「楽しい」の関係性は、高校受験が近づくと弱くなる傾向。(特に国語・社会・数学)

学年や教科によって授業に対する感じ方の傾向が異なるため、その傾向に応じて授業改善を進める必要がある。

教育データの利活用に関するガイドライン

令和4年12月  
埼玉県戸田市



URLはこちら

目次

- I. はじめに.....3
- II. 教育データ利活用の基本的な方針.....6
  - 1. 教育は技術に優先する.....7
  - 2. 差別的取扱いの禁止等.....7
  - 3. 熱心の自由の保障等.....7
  - 4. 教育の機会均等と水準の維持向上.....8
- III. 教育データ利活用に関する具体的な指針.....9
  - 1. データガバナンス体制の確立.....9
    - (1) 総括管理主体.....10
    - (2) 保有・管理主体.....12
    - (3) 分析主体.....13
    - (4) 活用主体.....14
  - 2. 安全管理措置の実施.....14
    - (1) 組織的安全管理措置.....15
    - (2) 人的安全管理措置.....15
    - (3) 物理的安全管理措置.....16
    - (4) 技術的安全管理措置.....16
  - 3. 関係者に対する丁寧な説明等.....17
    - (1) 利用目的の丁寧な説明.....17
    - (2) 学校現場におけるデータ利活用の文化醸成.....18
    - (3) 幅広い市民・世論の理解の醸成.....20
    - (4) 関係請求等があった場合の対応.....22
  - 4. データベースの構築・運用の在り方.....24
    - (1) 構築されるユースケース.....24
    - (2) データベースに実装すべき機能.....29
    - (3) データベースに搭載するデータの対象年度.....30
    - (4) データベースに搭載するデータの保存期間.....31
    - (5) 卒業等に際してのデータの取り扱い.....33
    - (6) データベースの活用.....33
- IV. 今後の方向性.....36
  - 1. 教育データ利活用の方向性.....36
  - 2. 施策の充実の方向性.....38
- V. おわりに.....41
- 参 考 資 料.....42

アジェンダ

- 1.教育総合データベースの進捗と学校でのダッシュボードの活用について
- 2.学級経営リフレクション〜児童学級満足度アンケートと組み合わせた分析とその活用に向けて〜



開催状況

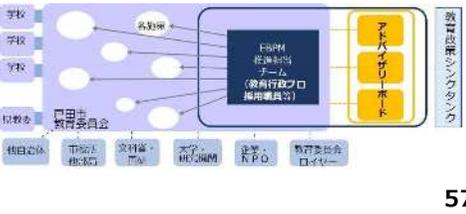
- 第2回アドバイザリーボード(R4.7月)  
中央省庁、大学、教委等 約160名 傍聴
- 第3回アドバイザリーボード(R4.11月)  
中央省庁、大学、教委等 約180名 傍聴
- 第4回アドバイザリーボード(R5.3月)  
中央省庁、大学、教委等 約260名 傍聴
- 第5回アドバイザリーボード(R5.10月)  
中央省庁、大学、教委等 約230名 傍聴
- 第6回アドバイザリーボード(R6.3月)  
中央省庁、大学、教委等 約170名 傍聴



アドバイザー

教育界のトップランナー達が集結!

- 堺みくに法律事務所・小美野達之弁護士 (スカーフアドバイザー)
- 丸の内総合法律事務所・木村 一輝 弁護士 (個人情報保護)
- 日本大学・末富芳教授 (教育行政学、教育財政学)
- 東京大学・田中隆一教授 (経済学)
- 上智大学・田村恭久教授 (教育学)
- 慶應義塾大学・中室牧子教授 (教育経済学)
- イエル大学・成田悠輔助教授 (経済学・機械学習・人工知能)
- 一般社団法人UNIVA・野口 晃菜 理事 (インクルーシブ教育)
- 青山学院大学・益川弘如教授 (学習科学)
- ※50音順で掲載



誰一人取り残されない、子供たち一人一人に応じた支援の実現

(1) 不登校等に係る子供達のSOSの早期発見・支援

個人レベル

不登校、いじめ等に関し、子供達のSOSが事前に何らかの兆候として現れていないか。それを踏まえ、ニーズに応じた早期支援ができないか。

(2) 貧困・虐待等の困難を有する子供達への支援

個人レベル

上記(1)のようなSOSの兆候が現れた場合に、家庭的な要因に係るデータを市内の関係部局等に共有することにより、貧困・虐待等の困難を有する子供達やその家庭への支援につなげることができないか。

(3) 学校カルテによる現場への継続的改善のためのフィードバック

学校〜学級レベル

困難な状況にもかかわらず学力等を向上させている学校には、共通する特徴があるのではないかと。そうした傾向の分析により、継続的改善のためのフィードバックが提供できないか。

＜主なデータ項目 (※検討中であり、今後変更が有り得る。)＞

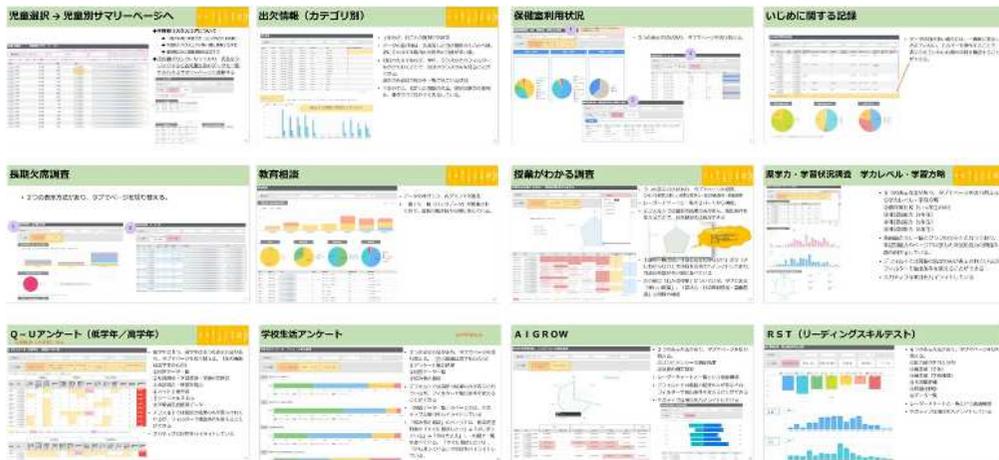
基礎情報	生徒指導	学力等	その他
氏名・生年月日・性別等	長期欠席調査	県学力・学習状況調査	出欠・遅刻・早退の状況
在籍学校名・クラス・出席番号	いじめ等に関する記録	県学力・学習状況調査質問紙	保健室利用状況
埼玉県学力・学習状況調査管理番号	教育相談の利用の有無	Reading Skills Test	授業がわかる調査
	SC・SSW相談	非認知的能力調査 (AiGROW)	学校生活アンケート調査
就学前段階	健康		Q-Uアンケート
保育・幼稚園の在園状況	乳幼児健診結果		シャボテン (心の天気) 等
	学校健診結果		

# ダッシュボード画面集 (カテゴリ別)

教育データが職員室の「共通言語」になることを目指して

◆データ項目ごとに集計画面を用意

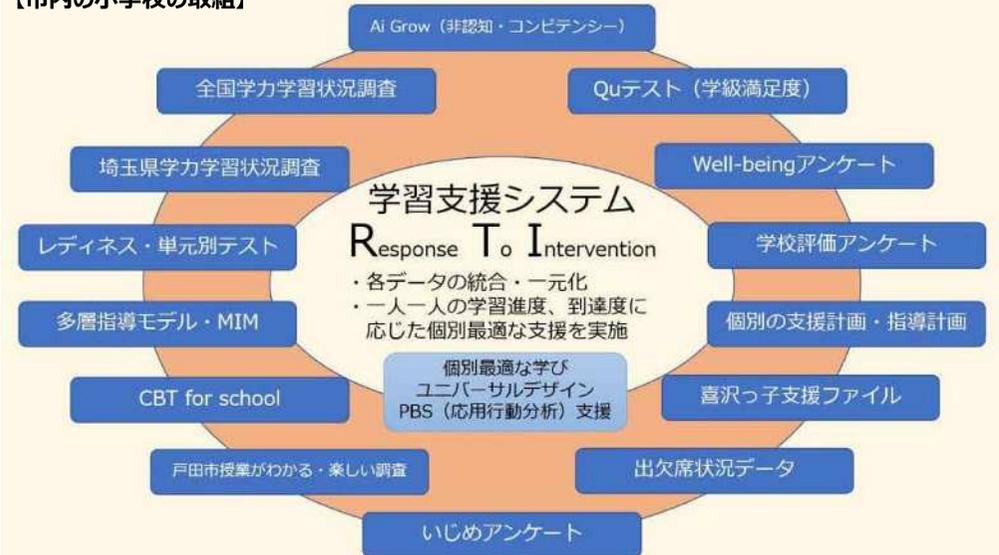
各データ項目の詳細を確認するには、そのデータの集計画面を選択



# データに基づき子供を見つめ抜くケース会議

かつてどの学校でもよく行われていた、一人の子供を全教師で見つめ抜く「ケース会議」を改めて重視すべきではないか。またその際、**教育データを積極的に活用**していくべきではないか。

【市内の小学校の取組】



# 戸田型オルタナティブ・プランの更なる推進

(令和6年度)

～誰一人取り残されない教育の実現～

- ◆ 「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢
- ◆ 「リアル」と「デジタル」の両面からの支援の充実、各居場所の有機的な連携の強化

**1 多様な学びの場の拡充 不登校を支援する**  
児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

**多様な学びの場の有機的な連携**

- ・総合的な不登校対策会議の実施 (年3回)
- ・埼玉県教育委員会との連携推進 (生徒支援教室「いっほ」)
- ・シェア型オンライン支援「room-K」の継続
- ・中学校校内サポートルームの設置【新規】
- ・教育支援センター「すてつぷ」「西すてつぷ」の有機的な連携

**2 不登校対策ラボラトリー「ばれっとらぼ」の取組深化 不登校を科学する**  
戸田市教育政策シンクタンクとの連携 全人的な教育を科学的視点で捉え、支える

**市長部局など関係機関との連携**

- ・不登校対策ラボラトリー「ばれっとらぼ」による効果検証
- ・「ばれっとらぼ」訪問等を通して、指導・助言 (研究を現場へ)
- ・「教育総合データベース」を活用した、不登校や傾向のある児童生徒の早期発見・早期対応
- ・「WEB-QU」の小学校全校実施
- ・多様な学びの場の利用者数の推移調査・分析
- ・多様な居場所の効果検証

**3 社会に開かれたネットワークの構築 (教育相談体制を拡充) 不登校を理解する**  
地域や保護者の理解を深め、協働の機運醸成を図る

**委託・連携事業等との関係強化**

- ・「第3回戸田市不登校について考える会」の実施
- ・教育センターの教育相談対応時間の拡充
- ・教育センターでの心理カウンセラーによる相談の充実
- ・土日に加え、水曜日夜間 (午後7時まで) にも相談できる体制
- ・民間団体との連携による支援体制の検討
- ・広報誌等を活用して、広く市民に取り組みを紹介

# 戸田型オルタナティブ・プランの根幹

学校には、

「やらなければならないこと（義務）」と、  
「やってはいけないこと（禁止）」



しかないのかも。そうではなく、すべての子供たちが、  
楽しいこと、やりたいことがたくさんあり、安心して学べる  
場所にすべきである。そのために、

まずは、「安心して学べる」と実感できる、つまり、  
「自分丸ごとが、脅かされることなく自他共に受け入れられ  
ていると実感できる」ようにしていくべきである。そして、

登校したい魅力ある学校にしていけることが大切

教育データは「子供たちの様子を知る手がかり」になる。  
教師の日常的な気付きに加え、子供たちを見つめ抜き、  
子供たちを深く知るためのものである。

## 戸田型校内サポートルーム 「ぱれっとルーム」

1 戸田型校内サポート  
ルーム設置事業  
不登校を「支援」する  
不登校傾向にある児童生徒を早期支  
援する

【趣旨】誰一人取り残されない教育の実現に向け、学校生活上、不安や困難を感じている児童や不登校傾向児童への多様な居場所の確保による早期対応・早期支援

個別の学習スペース

活動に使う道具

リラックスする  
スペース

図書や教材

各児童が予定を記入する  
ホワイトボード

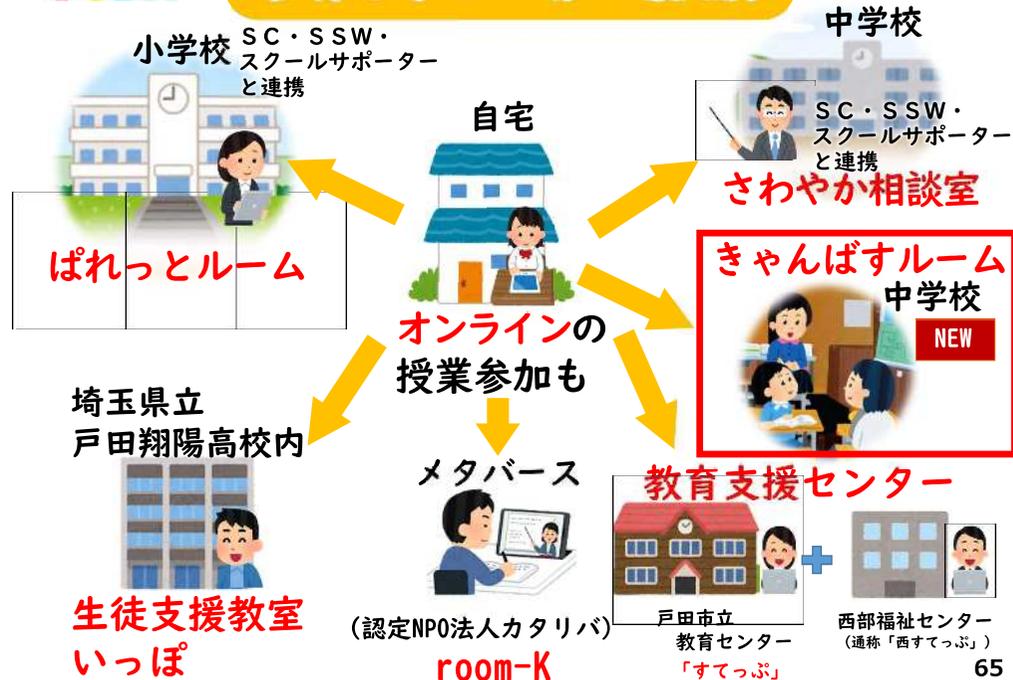
教室全体の様子

- 【活用例】
- ①何らかの理由により教室に行きづらい児童の生活や活動の場
  - ②一時的にクルドダウンが必要となった児童の居場所
  - ③教職員やスクールカウンセラー等の教育相談の場

- 【連携に関する取組】
- ①校内研修での共通理解
  - ②保護者への周知
  - ③担当者本人の対応力向上研修



# 多様な学びの場の選択肢



## 不登校対策ラボ 「ぱれっとラボ」

2 不登校対策ラボ  
「ぱれっとラボ」の取組  
不登校を科学する  
戸田市教育政策センターとの連携  
全人型教育科学研究の観点で得た、実証  
ことも家庭実証事業に採択

### 「ぱれっとラボ」外部研究員

- |   |   |
|---|---|
| 加藤 弘通 氏<br>(北海道大学教育学研究院 准教授)<br>梅村 拓未 氏<br>(北翔大学短期大学部 講師) | 侯 明江 (ホウ ユエジャン) 氏<br>(秋田大学教育学部 講師)<br>谷山 大三郎 氏<br>(千葉大学教育学部附属教員開発センター特別研究員) |
| 馬場 久志 氏<br>(日本薬科大学 特任教授)                                  | 東 宏行 氏<br>(埼玉県立大学 教授)   |

- 〈主な研究内容〉
- 児童生徒の実態把握や不登校等の予見や不登校対策につながる調査・分析・研究・評価を行う。
  - 調査研究WGでは、「ぱれっとラボ」に関する取組の効果検証をデータに基づいて行う。
  - 効果的活用WGでは、データに基づいて、「ぱれっとルーム」等のより効果的な活用について指導・助言を行う。

### スタンドバイ株式会社との連携

#### データに基づく心の健康観察

心の健康観察アプリ「シャポテンログ」の活用  
「ぱれっとルーム」モデル校の全児童が自分の端末で  
毎日、気分や体調を回答し、心の健康状態を記録する

#### 連携の概要

- 戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」モデル校において児童に自分の健康状態を記録、把握させることにより、児童の自己管理能力を育成する。
- 児童の日々の状態の変化を把握し、児童の心の健康問題の早期発見・早期対応につなげる。
- 児童の状態を分析することにより、心の健康問題の予見につなげる。

### 「ぱれっとラボ」の具体的な取組

- 「ぱれっとルーム」に係る様々なアンケート（児童・保護者・教職員等）の実施・分析
- 「シャポテンログ」の導入・分析
- 「より良い学校生活づくりのためのアンケート」の実施・分析（中学校2校）
- 「ぱれっとルーム」訪問及び指導・助言
- 小・中学校スクールサポーターへの指導・助言
- 戸田市総合的な不登校対策会議における講演



